

## 平成 9 年度試験研究成果

区分	指導	題名	水稲オリジナル品種「かけはし」の発育指数(DVI)パラメータの変更		
[要約]平成6年度に策定した発育指数(DVI)パラメータに使用したデータ(平成4~6年)に平成7~9年のデータを新たに加え、パラメータを変更することとした。					
キーワード	かけはし	発育指数(DVI)	生育診断予測	県北農業研究所 やませ利用研究室	

### 1. 背景とねらい

水稲オリジナル品種「かけはし」の発育指数(DVI)パラメータは平成6年度指導上の参考事項(水稲品種「かけはし」の生育・栄養診断基準と栽培法)で参考に供している。しかし、策定に使用した年次が主に平成5・6年と限られていたため、精度に問題があった。

そこで、平成7~9年の農業試験場・農業研究センターの作況調査・作期試験及び地域農業改良普及センター生育診断圃のデータを新たに加え、発育指数(DVI)パラメータを変更することとした。

### 2. 技術内容

水稲オリジナル品種「かけはし」の発育指数(DVI)パラメータを以下のように変更する。

#### (1) 移植日~幼穂形成期

A	Th	G	C	D
0.179058	15.595729	51.408527	0.051520	0.227531

#### (2) 幼穂形成期~出穂期

A	Th	G
0.427262	18.557817	16.977342

#### (3) 予測精度

	平均誤差 (日)	相関係数 (R)
移植日~幼穂形成期	2.29	0.8440
幼穂形成期~出穂期	1.92	0.8697

### 3. 指導上の留意事項

- (1) 生育診断予測パラメータは「水稲生育診断予測システム」に入力して使用する。  
なお、入力方法の詳細は「リアルタイムメッシュ気象情報システム利用の手引き」を参照のこと。
- (2) 出力結果は地域の生育状況などを総合的に判断して使用すること。  
なお、適地外の作付けに対しては誤差が大きくなることがあるので注意する。
- (3) 平成5年のような低温年には予測値より遅くなる傾向がみられるので注意する。

### 4. 技術の適応地帯

北上川上流・下閉伊・北部の標高が概ね250~350mの地帯

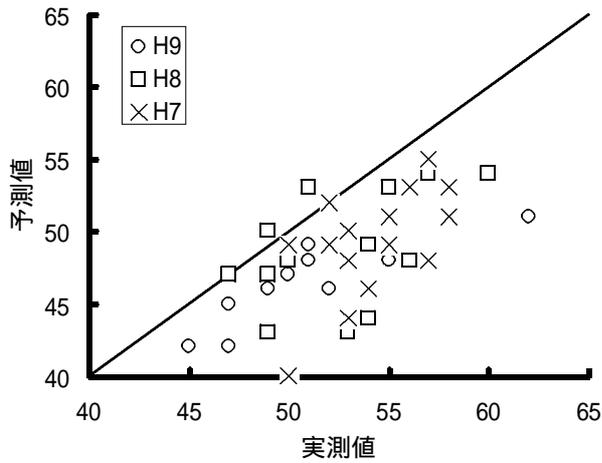
### 5. 当該事項に関わる試験研究課題

- [水田利用2]-3-(4)-イ-(イ)-a 「かけはし」の栽培法
- [水田利用2]-4-(5)-ア-(ア) 生育診断予測と対応技術

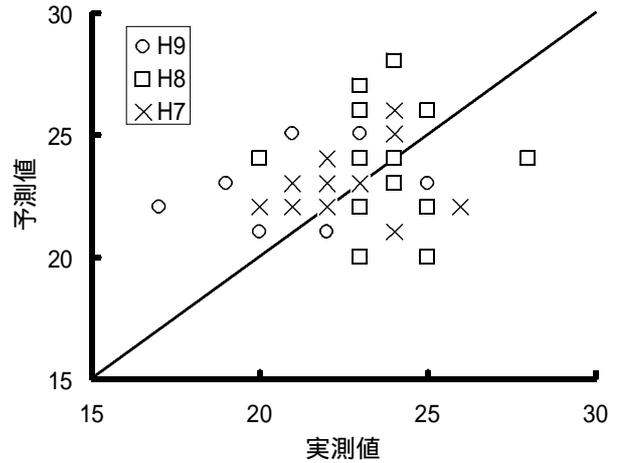
### 6. 参考文献・資料

- (1) 平成3年度 県が奨励する農産物優良品種 水稲(うるち)「岩手34号」
- (2) 平成6年度 普及指導上の参考事項 水稲品種「かけはし」の生育・栄養診断基準と栽培法
- (3) 平成8年度 普及指導上の参考事項 平成8年産「かけはし」の品質の特徴と品質向上対策
- (4) 試験成績概要書(平成4年~8年)岩手農試県北分場
- (5) 試験成績概要書(平成9年)岩手県農研センター県北農業研究所(未定稿)
- (6) 水田作に関する試験成績概要書(平成4年~8年)岩手農試技術部
- (7) 平成元年度指導上の参考事項「水稲生育診断・予測プログラムの利用」
- (8) 水稲の発育動態システムの開発研究報告書1989京都大学農学部
- (9) 「リアルタイムメッシュ気象情報システム」利用の手引き 平成4年3月 岩手県農政部

7. 試験成績の概要(具体的数字)



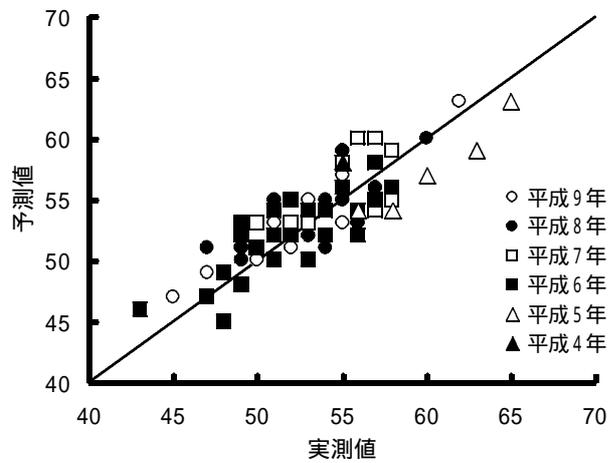
(移植日～幼穂形成期の日数)



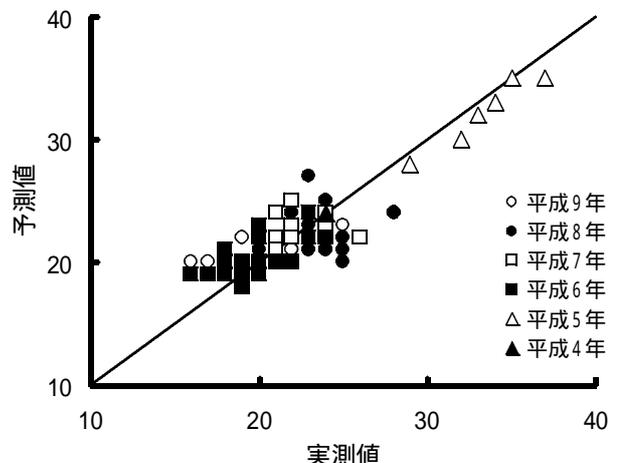
(幼穂形成期～出穂期の日数)

図1. 旧発育指数(DVI)パラメータを用いた場合の予測値と実測値  
(平成7～8年農試本場, 県北分場・平成9年県北農業研究所, 平成7～9年普及センター生育診断圃)  
注1: 旧パラメータは平成6年度の参考事項(平成4～6年のデータより策定)

旧パラメータを使用し、平成7～9年の移植日～幼穂形成期の日数を予測した場合、実際の日数よりも早く算出する傾向がみられる。また、移植日～幼穂形成期の日数・幼穂形成期～出穂期の日数とも適合度は低い。



(移植日～幼穂形成期の日数)



(幼穂形成期～出穂期の日数)

図2. 今回策定した発育指数(DVI)パラメータを用いた場合の予測値と実測値  
(平成5～8年農試本場・平成4～8年県北分場, 平成9年県北農業研究所,  
平成6～9年普及センター生育診断圃・モデル展示圃)

今回策定したパラメータを使用した場合、移植日～幼穂形成期の日数・幼穂形成期～出穂期の日数とも適合度は旧パラメータに比較し高くなるが、平成5年のような低温年には移植日～幼穂形成期の日数・幼穂形成期～出穂期の日数とも予測値より実測値が遅くなる傾向がみられる。